冠婚葬祭総合情報誌
全日本ニュース
発行／株式会社フォトサービス
TEL. 03-5980-0290

※本誌に掲載している情報は、一部インターネットなどに掲載されている文献をもとに編集しておりますので、地域・風習等により異なる場合がございます。

城崎温泉 ※

カバンストリートにある「Artisan」の展示

力強く羽ばたくコウノトリ ※

豊岡市にお住まいの川島正博様から、長くお住まいになっている豊岡市のご紹介のお便りを頂きました。

兵庫県の北。日本海に面した但馬地方の豊岡市が、私の生まれ育ったふるさとです。この地を離れて暮らしたのは二度だけです。一度は浪人期を含めた五年間、大阪で学生生活を送りました。もう一度は四十歳代に福井県で三年間の単身赴任生活をしました。四月に満七十四歳ですから、六十六年間をこの地で暮らしていることになります。

但馬地方は長く一市十八町でしたが、平成の大合併により三市二町になりました。豊岡市は合併前からの市です。近隣の旧五町（城崎、竹野、日高、出石、但東）と合併して兵庫県下で最大の面積の市となりました。

六つの旧市町域は、それぞれの来し方や地域特性を配慮されて○○地域と呼ばれていますし、役所はそれぞれに地域振興局を置いて未来を見据えています。ちなみに私は出石地域で生まれ、豊岡地域で育ち暮らしています。中学校の教員でしたが、三年間の県外派遣以外、勤務地は豊岡、竹野、城崎地域という現豊岡市内だけ。公立学校の教員としては狭い範囲の異動に終わりました。

古くから全国的に知られているのは城崎地域かも知れません。山陰の名湯・城崎温泉（きのさきおんせん）です。読書好きには、志賀直哉の「城の崎にて」の舞台としても知られています。私が学生として大阪にいたころ、豊岡を知っている人は皆無に近く、城崎温泉の近くだと言うとたいていの人が知っていたのを懐かしく思い出します。

現在の豊岡市は「コウノトリ」と「豊岡かばん」で広く知られ、市民の自慢です。

国の特別天然記念物であるコウノトリは、かつて絶滅の危機にありました。国内最後の生息地だったのが豊岡市です。昭和四十年、市ではコウノトリの人工飼育に着手し、長きに渡る苦労が始まりました。その任に当たった人々は、大空から狭いケージに入れられた物言わぬコウノトリに約束したそうです。「今にきっと大空に返すから」と。その約束は平成元年のヒナ誕生によって現実味を帯び、平成十七年、秋篠宮ご夫妻ご臨席の下、五羽のコウノトリが豊岡の大空に放たれました。その後放鳥は順調に行われ、今、日本国内はもとより韓国にまで豊岡生まれのコウノトリが飛翔しています。かつて日本のあちこちで優美な姿を見せていたコウノトリが日本の空から消えて半世紀。再び大空に返すことができたのは豊岡市民の大きな誇りです。

豊岡市は但馬の母と讃えられている円山川の下流域に位置しています。かつて豊岡では湿地で育つ「コリヤナギ」を原料に行李や籠などの生産が盛んでした。これが現在の豊岡かばんの隆盛につながっています。外国製品が市場にひしめく中、品質重視の豊岡かばんにはそのタグが誇らしく付けられ、国内はもとより世界の市場に進出しています。

すきとおった水の砂浜。ススキがたなびく高原。元禄の風情を今に伝える城下町。市内数カ所の豊かな温泉。私は、ふるさと豊岡に暮らす日々を何より幸せに思っています。

川島様、お手紙ありがとうございます。六十六年間もお住まいになっている地元への愛が感じられるお手紙でした。元中学校の先生ということで、卒業され、違う土地に行った卒業生にとっては、川島先生はふるさとと供に思い出される存在となられているのではないでしょうか。

そして、豊岡市に行って参りました。今年は雪が多いらしく、市街地はきれいに除雪されてはいましたが、景観が思うように撮影はできませんでした。大交流課の方にお願いして、ダイナミックなコウノトリと城崎温泉の情緒あふれる画像をお借りしました。ありがとうございます。川島様が紹介されている「豊岡かばん」については地場産業振興センターや、カバンストリートにある学校、そして販売されている「エンドー鞄」様にお邪魔し、カバン生産額日本一の「豊岡かばん」の品質と魅力についてお話しを伺うこともできました。そして食事は「出石皿そば」。豊岡市を堪能してまいりました。

◆　◆

今回のふるさとも大変素晴らしいところでした。皆様のふるさと自慢をお聞かせください。お便りをお待ち申し上げております。

（※）の画像は豊岡市大交流課提供

出石焼の器に盛られた出石皿そば

カバンの自販機?カバンストリートにて

豊岡かばんの専門店「エンドー鞄」

「Artisan」にあるカバン作りの学校

地場産業振興センターの豊岡かばんの歴史展示

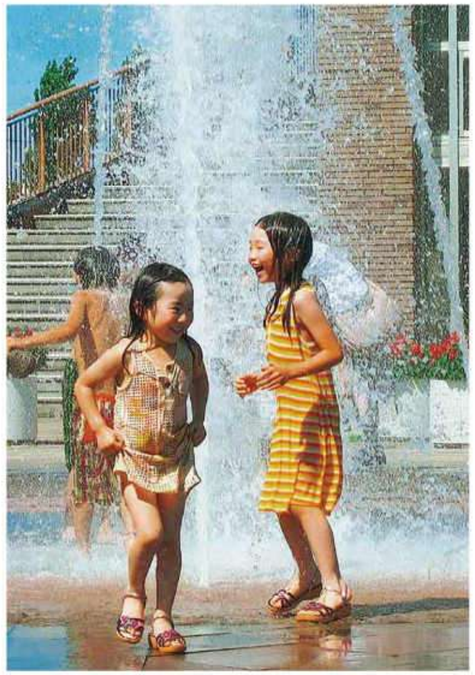
あなたのふるさとを皆様に紹介してみませんか？

皆様の故郷や第二の故郷の、おいしい食べ物・素敵な場所・歴史などをお聞かせください。ちょっとした観光地でもあなたの思い出深い事なら大歓迎です。ぜひこの機会に多くの人に知ってもらい、あなたの素顔を皆様に分けていただけませんか?採用させていただいた方には謝礼として1万円をお送りさせていただきます。次号の作成都合上、11月30日までにご応募の方から選考させていただきます。
右記の住所に1200文字くらいを目安に文章にしていただき、お名前・ご住所・電話番号を記載の上郵便などでお送り下さいませ。次号（全国版）第一面に掲載させていただきます。なお著作権を侵害するような物は使用できませんので、あらかじめご理解の上ご応募下さい。

応募先
〒170-0004東京都豊島区北大塚2-3-15 2F
株式会社フォトサービス　全日本ニュース係宛

発表! 全日本ニュースフォトコンテスト
たくさんのご応募、ありがとうございました。次回募集要項

グランプリ「ふかふかの絨毯」清光 静枝さん（兵庫県）


特選「つめたいね～」藤井 伸一さん（富山県）

全日本ニュース特別賞「雪の家」松林 良和さん（石川県）

みどり生命保険賞「弟の出現」志村 容子さん（北海道）

テーマ「こどもの世界」
こどもならではの不思議なあそび、独特の世界観が現れているような写真。
たくさんのご応募ありがとうございました。

入選「できた!!」柏原 光陽さん（宮城県）

入選「保育園最後の運動会」山田 恵美さん（京都府）

入選「仲よし友達」小尾 明さん（山梨県）

■次回テーマ「どうぶつぱんざい」
おうちのペットや動物園でとった、楽しい動物の写真をお送りください。

■応募作品について
- ●応募作品は未発表のものに限ります。
- ●被写体の肖像権侵害等の責任は負いかねます。万一第三者との紛争が生じた場合は応募者自身の責任によって解決していただきます。
- ●応募者本人が撮影し、すべての著作権を有しているものに限ります。

■応募方法について
- ●KG サイズ（はがきサイズ）以上 A4 以内のプリントでご応募ください。カラーでもモノクロでもけっこうです。スライドやデータでの応募はお受けできません。
- ●プリントの裏面に作品のタイトル、撮影者のご住所、お名前、ご年齢、電話番号、メールアドレスをお書き込みください。別紙にお書きになり、貼付けてもけっこうです。

■締め切り
- ●2017 年11月30日必着。

■入賞について

●グランプリ	1点	1万5千円
●特選	1点	8千円
●入選	3点	3千円
●みどり生命保険賞	1点	5千円
●全日本ニュース特別賞	1点	5千円

- ●全入賞作品の使用権は主催者に帰属し、プリント展示、出版物、宣伝広告、インターネット等へ無償で使用させていただきます。

■応募作品の返却について
- ●応募していただいた作品は返却いたしません。ご了承ください。

■応募先
〒170-0004 東京都豊島区北大塚 2-3-15 2F 株式会社フォトサービス 全日本ニュース係宛